

令和3年度 新型コロナウイルス対策支援関連寄付事業研究成果報告書

部署・職名 血液・免疫・感染症内科・教授
氏 名 竹中 克斗

研究課題	地域医療におけるCOVID-19感染拡大防止への取り組み
------	------------------------------

1. 研究概要

愛媛県における新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）感染状況は、2020年3月2日に初感染が確認されて以来、2022年4月10日まで27,702人の感染者が発生している。当院は感染症指定医療機関として重症患者を中心に診療を行っている。当院では、感染蔓延状況の把握と、感染拡大防止への取り組みとして、第1波後から、当院外来患者および当院職員における新型コロナウイルス抗体保有者の頻度調査を行い、流行状況を経時的に把握するため、抗SARS-CoV-2抗体保有者の頻度調査をほぼ6ヶ月毎に実施し、今後の流行に備えることとした。2021年7月、12月に、血液検査が実施された外来患者および健康診断で血液検査が実施された医療従事者を対象として、自動機器を用いて当院で抗SARS-CoV-2抗体を測定した。

2. 研究成果・進捗状況

調査期間は、2021年7月、12月で、対象者は当院外来通院中で血液検査が実施された患者および健康診断で血液検査が実施された当院職員で、7月期は、外来通院患者1,000人、当院職員804人（ともに無作為に抽出）、12月期は、外来通院患者1,000人、当院職員415人（ともに無作為に抽出）で、血清抗SARS-CoV-2抗体を測定した。本研究は、当院臨床研究倫理審査委員会で承認され、検体はいずれも匿名化し個人情報に十分配慮した。結果としては、陽性者は1名のみであった。同時期の他県の調査では、いずれの都道府県も抗体陽性率が上昇しているが、当院では抗体陽性率の上昇は見られなかった。特に、12月期は、第5波と呼ばれる感染流行期後の調査であり、感染症指定医療機関である当院の病院職員の感染率が0%であったことはこれまでの当院の感染対策が有効であったと考える。

3. 今後の研究計画

2021年3月よりCOVID-19ワクチンの接種が開始となっており、同年12月に、病院職員は3回目のワクチン接種を終えている。新型コロナウイルス感染対策は、ウィズコロナに移行しつつあるが、依然として感染者は多く、今後も、同じコホート集団の経時的な抗体保有率の推移とともに、職員のワクチン接種後の抗体価の推移など、地域医療におけるCOVID-19感染拡大防止への取り組みについて疫学的フォローアップ調査を実施していく予定である。

